

水戸城大手門



(表紙写真提供：水戸市教育委員会)

2020年2月4日、水戸城大手門の復元整備が完了しました。木造2階建て、高さ13.34m、幅17.18m、奥行き5.73m。その迫力ある門は、水戸城の「正門」にあたり、土塁に接する大手門としては、国内屈指の規模と称されています。

北を那珂川、南を千波湖に囲まれた水戸城は、土塁と空堀で構成され、その広さは日本最大級を誇りました。水戸城の由来は、平安時代末期から鎌倉時代初期に建てられた馬場氏の館であり、その後、江戸氏、佐竹氏を経て、水戸徳川家の居城となりました。

大手門は、佐竹義宣が水戸城主であった1601年（慶長6年）頃に創建されました。その後、何度か建て替えが行われ、明治時代に解体されたと言われています。

今回の復元では、江戸時代の手門と同じ在来工法が採用されました。使用する木材は、県産材を中心に全国各地から建築条件に合うものが探し出され、職人たちの手によって一つひとつ組み上げられました。

復元までには、5年間で6回にも及ぶ発掘調査が行われ、門が建っていた場所や寸法などが明らかになりました。また、大型の瓦と粘土を交互に積み上げて作られた練塀も発見され、大手門の四隅に整備されました。なお、水戸城の練塀は、「瓦塀」と呼ばれているそうです。

新型コロナウイルス感染症が終息した後、ご家族・ご友人とともに、古くて新しい水戸の歴史的名所を散策してみたいかがでしょうか。



◆場所：茨城県水戸市三の丸2丁目地内

◆アクセス：

【車】常磐自動車道「水戸IC」より約30分、
北関東自動車道「水戸南IC」より約15分

【電車】JR常磐線「水戸駅」北口から、徒歩で約10分

※建造物の保護及び歩行者の安全確保のため、車両の通行は禁止されています。なお、自転車およびバイクは、押し歩きにて通行可能となります。